



発行所
 社団法人 国民文化研究会
 (九州←→東京←→全国)
 東京都渋谷区東1-13-1-402
 振替 00170-1-60507
 電話 03-5468-6230
 F A X 03-5468-1470

月刊「国民同胞」編集部
 毎月一回10日発行
 購読料 年間2000円

「日本の進路」に思ひを凝らした三泊四日

第五十二回全国学生青年合宿教室

合宿運営委員長 内海勝彦

第五十二回全国学生青年合宿教室が、八月十六日から十九日の三泊四日、聖徳太子ゆかりの奈良県生駒郡平群町の信貴山大本山「玉蔵院」にて、全国各地から相集った百八十名の学生・社会人により営まれた。

開会式直後の太田文雄氏による合宿導入講義「世界の情勢をどのやうに見るか」から研修は始った。冷戦後の国際テロやサイバー攻撃といった国境を越えた新たな脅威が説明され、また近年中国が「韬光養晦」(能力を表に出さずに実力を蓄へること)に徹して、国防費の公表値を低く見せてゐることなどに警鐘が鳴らされた。そして文化や思想が戦ひの手段となつて展開する国際情報戦の現実が具体的に語られ、国民一人一人が国防について自覚することの重要性を訴

で現代に生きてをり、その第三条の「承詔必謹」の教へによつて「終戦の詔」を奉じ矛を収めたやうに、日本の将来の道標であることが具体的に条文に即しながら説示された。歴史の生きた連続性を感じさせられる御講義であつた。続く小川三夫先生の御講話「不揃ひの木を組む」では、古代の工人の心と巧な技が紹介され、現代人が忘れかけてゐるものを思ひ起させるものであつた。「うそ偽りのないものを次の世代のために遺す」「寺院の塔は一本一本が支へあつて総組みで立つてゐる」等々のお言葉は、ヤリガンナの実演とともに参加者の心を引き付けた。

午後は、鏗信弘氏の短歌創作導入講義のあと、短歌創作をかねて法隆寺見学が行はれた。西院伽藍の五重塔、金堂の近辺で小川先生からご説明を戴いて、改めて先人の偉大さを思ひ知らされる見学となつた。夜の岸本弘氏の古典輪読導入講義では、黒上正一郎著「聖徳太子の信仰思想と日本文化創業」の一節が採り上げられ、前日から学んできた太子のご精神をそのお言葉に触れながら直に偲んでゆく時間であつた。参加者は難解な文章の意味を辿りつつ、著者の思ひとそこに込められた太子のご

精神を学ぼうと努めた。

三日目朝の小野吉宣氏の講義「皇室と国民、御製にふれて」では、冒頭日本を一方的に悪いとする自虐的な戦後史観の誤謬を厳しく指摘された後、明治天皇と昭和天皇の御製が紹介されて「詠者がどの様なお気持ちなのか、そのお心に迫ることの大切さが力説された。参加者は御製を深く読み味はうと心を傾けた。午後の寶邊矢太郎氏の創作短歌全体批評では、自分の気持ちと正確に表現することの意味合ひが具体的に指摘された。夜の慰霊祭に先立ての小田村初男氏の講話「皇宮警察本部長の任を終へて」では、国民の幸を常に祈つてをられる皇室の伝統が御製や陛下のお言葉を通して語られた。

最終日の全体感想自由発表では十八名の参加者が次々と登壇し「日本は美しく、たくましい国であることが分つた」「若者が本当の日本の姿を伝へてゆく義務がある」等々、訥々と、時に声を詰まらせながら合宿で得た感動を語つた。かくして合宿教室は閉会したが、全国各地からの参加者は今後の研鑽と次回合宿での再会を誓ひ合つて、気持ち新たに信貴山を後にした。(株)アイ・エイチ・アイ・エアロスペース勤務数へ五十三歳)